業務棚卸表（事後評価表）

A表

年度	平成２２年度

基本目的　8　　市民が自己を高め、生きがいをもって暮らせる

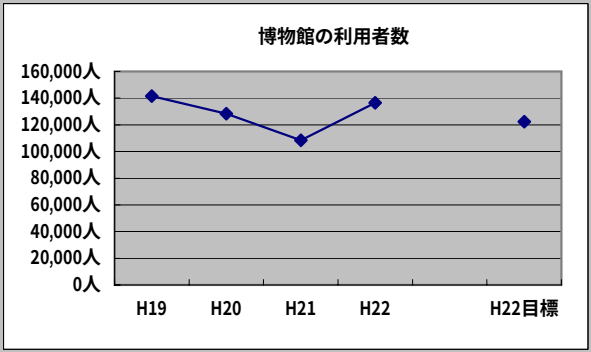
行動目標　8－1　市民の芸術･文化活動が高まる　　（所管課名　教育委員会博物館）

任務目的	市民の創造性を高め、郷土を大切にする心や科学する心を育み、よりよいまちづくりや未来を考える場を提供する。	達成度	☆☆☆

任務の成果･活動指標の推移

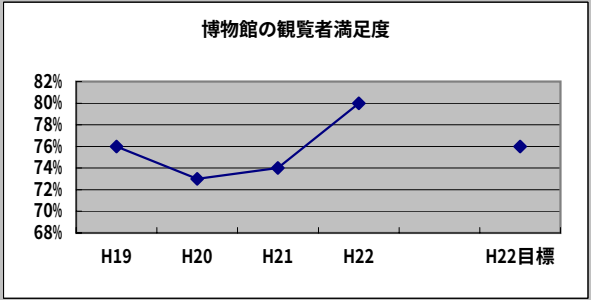
博物館の利用者数

H19実績	141,624人
H20実績	128,397人
H21実績	108,490人
H22実績	136,537人
H22目標	122,400人



博物館の観覧者満足度（アンケート調査結果）

H19実績	76%
H20実績	73%
H21実績	74%
H22実績	80%
H22目標	76%



指標の説明

任務目的を達成するためには、なるべくたくさんの人に利用していただき、満足していただく必要があることから、観覧者や各種催し物参加者などの博物館利用者数と観覧者アンケートによる満足度を掲げた。

○　任務目的に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成２２年度実績

○博物館の利用者層を広げることを目的に、親しみやすい内容の展覧会やプラネタリウム番組とした。また、教育普及事業の充実やはやぶさ帰還カプセル展示など、多彩な事業展開で利用者を増やすよう努めた。その成果かプラネタリウムは過去最多の観覧者数を記録し、博物館全体の利用者総数及び満足度も目標及び前年度を大幅に上回ることができた。
○展覧会事業では、「ひめゆり　平和への祈り」や「ボローニャ国際絵本原画展」など、5本の特別展･企画展を実施した。また、4回にわたる学習支援展示を実施し、郷土の歴史や文化に触れることによって「郷土を大切にする心を育み、世代をつなぐ」ことに努めた。
○天文事業では、はやぶさ帰還カプセル展示に合わせてプラネタリウムで「はやぶさ」の番組を投映するとともに、JAXAから講師を招聘して宇宙塾を開催するなど、はやぶさ関連の事業展開を行い、多くの来館者があった。
○学校のカリキュラムに合わせた学習支援展示や親子で楽しめる教室、理科離れ対策としての天文学校連携授業や子ども科学教室などを通して、次世代を担う子ども達の郷土を大切にする心や科学する心を育むよう努めた。

平成２３年度見通し

○市民の創造性を高められるような見応えのある展覧会の実施をはじめ、幅広く多くの市民が興味と親しみを持てる事業展開を図る。
○プラネタリウムでは、話題性があり、わかりやすく興味を持てる番組作りを進めるとともに、学校利用をより円滑に進めるため学校との連携の充実を図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

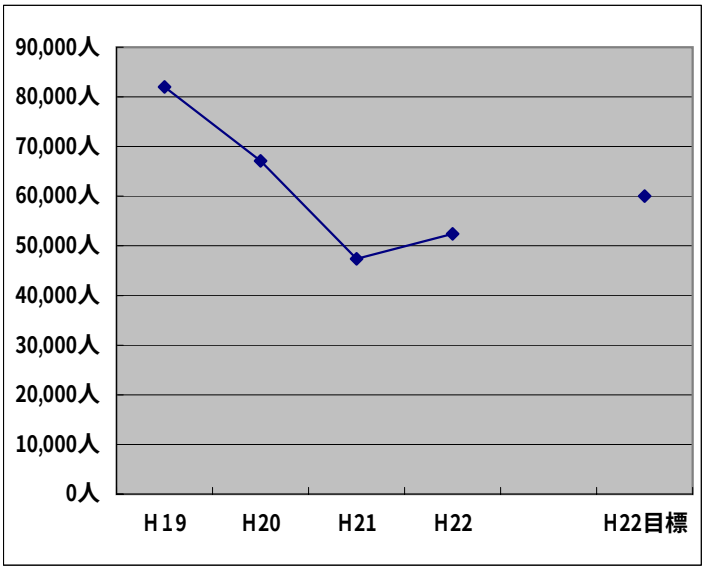
○博物館の使命を達成するため、より多くの観覧者を迎えられるような展覧会企画やプラネタリウム番組の制作に一層の努力と工夫を行い、利用者層を広げることによって運営の基盤を拡充する。
○学習支援展示や天文学校連携授業を通して、学校教育をより豊かなものにできるように努める。
○常設展示設備やプラネタリウム機器の老朽化が進んでいるため、できるだけ早急に、具体的な改修計画を立案する。
○博物館の事業を円滑に進めていくため、効率的に施設の修繕を進め、来館者の快適性を維持するとともに、館の機能維持を図る。

業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成22年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
1	展示の実施	観覧者数	H19実績	81,981人	
			H20実績	67,128人	
			H21実績	47,355人	☆☆
			H22実績	52,382人	
			H22目標	60,000人	



基本的な手段に対する評価

平成22年度実績

○夏休み期間に開催した「ひめゆり　平和への祈り」展では、約9,400人の観覧者があり、「戦争の記憶」を風化させることなく、平和について考えていくことの大切さを、世代を超えて訴えることが出来た。
○隔年での開催である「ボローニャ国際絵本原画展」は、親子での絵本教室の開催や感想画コーナーなど参加型の展覧会とし、約5,200人の観覧者があった。
○「なつかしい暮らし」展は、小学校の学習支援として毎年開催しており、授業の一環として見学する学校が増えつつあるなか、22年度は一般の来館者も例年より多く、約7,200人の観覧者があった。
○年間の観覧者数は、目標を達成することはできなかったが、前年度を約5,000人上回った。

平成23年度見通し

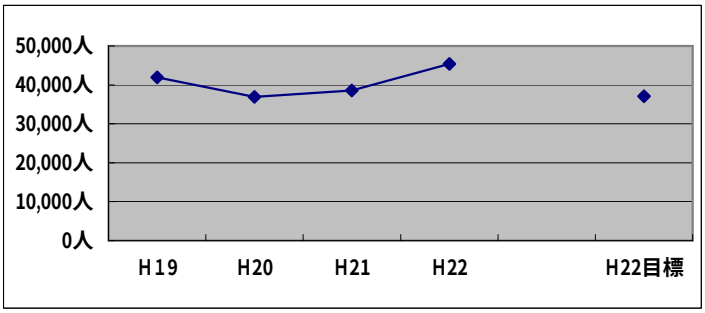
○市民の各年齢層やニーズを考慮しつつ、歴史、美術、科学など幅広い分野の展覧会を実施して、より多くの市民の関心が得られるよう、見応えのある企画を実施していく。
○夏休み期間に開催する「ダ・ヴィンチ」展では、科学者としてのダ・ヴィンチを紹介することで、小中学生の理科への関心を高めていきたい。
○「四日市宿と東海道」展では、館蔵の「清水本陣文書」を活用し、四日市宿の紹介を行う。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引
特別展等開催	41,671	36,052	35,809	△ 5,862

これからの課題、事業展開の方向性

○市民のニーズに応える企画を目指してきたが、より多くの市民に利用してもらうには、潜在ニーズを掘り起こすような、既存の枠に捕われない独創的な企画が必要である。市民の生活に身近なテーマを新たな切り口で取り上げ、幅広い層から指示されるような事業展開を図っていく。
○新学習指導要領に基づき、学校との連携、協力を積極的に行っていく。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
2	プラネタリウム投映の実施	観覧者数	H19実績	41,926人	
			H20実績	36,900人	
			H21実績	38,538人	☆☆☆☆
			H22実績	45,406人	
			H22目標	37,100人	



基本的な手段に対する評価

平成22年度実績

○アニメのキャラクターなどを用いた家族向け番組、自主制作の一般番組や星座番組、学校団体向けの学習番組、生演奏やアロマの特別番組など、多彩な番組構成で多様な客層に応えるよう努めた結果、観覧者数は開館以来最多の実績をあげることができた。内容面では、自主制作番組において当館の独自性を発揮することができた。

平成23年度見通し

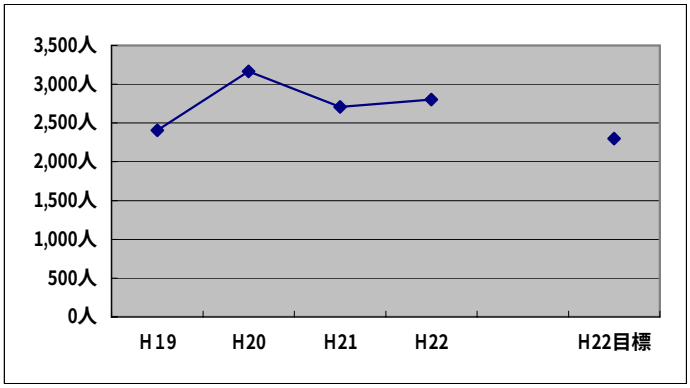
○太陽が活動期に入ったことから、オーロラの魅力を伝える番組を自主制作する。また、平成24年5月に四日市でも金環日食が観望できることから、それに関連した番組を自主制作していく。これらの番組の投映により、多くの市民に天文現象の魅力を伝える。
○幼児や小学生などの若年層が星空に興味を持つきっかけとなるよう、アニメのキャラクターを通して星空を眺めることの魅力を伝える番組を投映する。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引
プラネタリウム投映事業	11,268	11,145	11,072	△ 196

これからの課題、事業展開の方向性

○積極的に広報活動に取り組む。
○事業の見直しと精選を図り、より効果的に事業が展開できるように工夫する。
○機器の老朽化が進んできているため、番組のデジタル化を進め、光学式機器の負担を軽減するとともに、メンテナンスの充実を図る。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
3	教育普及事業（博物館）の活動	参加者数	H19実績	2,406人	☆☆☆☆
			H20実績	3,164人	
			H21実績	2,709人	
			H22実績	2,803人	
			H22目標	2,300人	



基本的な手段に対する評価

平成22年度実績

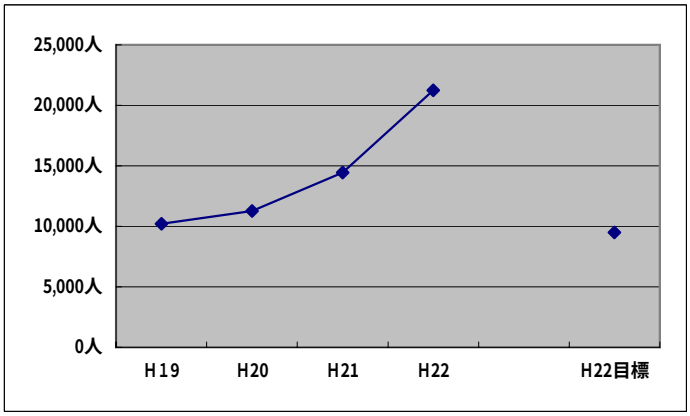
○子ども博物館教室では、展覧会の内容をより親しみやすいものとする体験的な教室を開催した。
○学校からの団体見学では、体験用キット及び資料を整え、子ども達の興味を引くよう工夫した。
○館職員と学習支援ボランティアとが協働し、子ども達へのきめ細かい働きかけを行うよう努めた。
○日本近代絵画をテーマとしたミュージアムセミナーは、毎回多くの受講者があった。
○年間の参加者数は、目標及び前年度を上回ることができた。

平成23年度見通し

○前年度に引き続き、子ども博物館教室において失われつつある年中行事を取り上げて次世代に伝えていく。
○大学生の博物館実習では、館蔵資料の整理作業など現場を体験させるとともに、常設展示をテーマにして展示手法を学ばせることで、実習効果を向上させる。
○各種団体より出前講座の要請も多くあり、積極的に対応していくことで、市民の歴史･文化への関心をより高めていく。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
教育普及活動事業	1,064	910	901	△ 163	○次代を担う子ども達を対象とする事業は、もっとも重要な事業のひとつとして位置付けており、学校･園との連携を益々強め、学習支援展示の見学が授業の一環として定着するよう内容及び受入体制の充実を図る。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
4	教育普及事業（天文）の活動	参加者数	H19実績	10,224人	☆☆☆☆
			H20実績	11,273人	
			H21実績	14,443人	
			H22実績	21,233人	
			H22目標	9,500人	



基本的な手段に対する評価

平成22年度実績

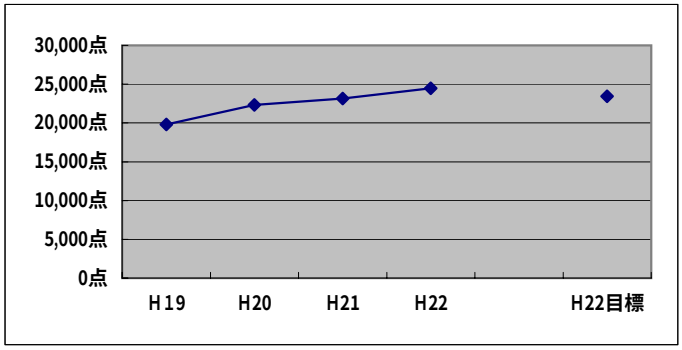
○はやぶさ帰還カプセル展示及びそれに関連した事業を行ったことにより、教育普及事業への参加者が増加した。はやぶさ関連の展示では、展示内容をよりわかりやすくするために職員や天文ボランティアが解説を行った。今回の展示は、市民からの強い要望も重なったことで、約9,000人の集客があった。
○小中学校との学校連携活動の強化を図った。学校連携授業は小中各24校で実施した。

平成23年度見通し

○多くの市民や子どもたちに星や惑星、皆既月食などの天文現象を観てもらうために、市内各地で観望会を実施する。また、天文ボランティア研修を積極的に行い、観望会のレベルアップを図る。
○小中学校との連携による授業のさらなる強化を図り、小学校では市内の半数、中学校では市内全校での実施を目指す。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
天文教育普及活動事業	1,142	1,178	1,131	△ 11	○学校教育との連携をさらに強め、継続的な支援体制の充実を図る。 ○学校連携授業の充実を図るため、コンテンツを自主制作する。 ○主催観望会により多くの市民が参加できるように会場等の精選を図り、広報活動を強化する。

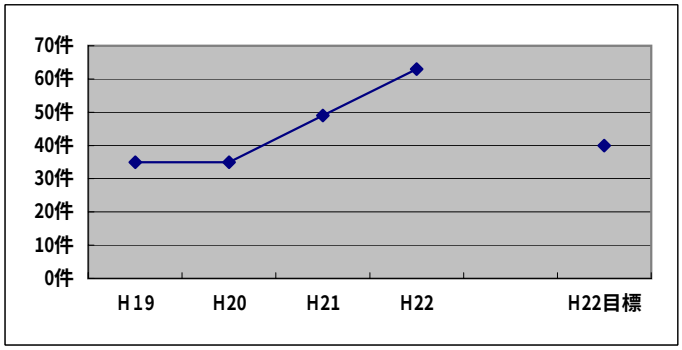
目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度	基本的な手段に対する評価
5	資料の収集保存	累積資料点数	H19実績	19,794点	☆☆☆	**平成22年度実績** ○地元関連の資料収集と整理に努めた。 ○毎年実施している学習支援展示「むかしの暮らし」展の際に市民からの歴史･民俗関係の資料提供を呼びかけたところ、関心が予想以上に高く、多くの寄贈を得て目標を超えることができた。そのほか、本市における近代産業の礎を築いた「伊藤伝七」関係資料の寄贈があった。
			H20実績	22,344点		
			H21実績	23,145点		
			H22実績	24,462点		
			H22目標	23,445点		



平成２３年度見通し
○引き続き地元関連の資料収集と整理に努める。
○資料購入予算が限られているため、展覧会や学習支援展示の開催を通して、さらなる市民からの寄贈を促進する。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
資料収集保存事業	6,481	6,912	6,715	234	○経常的に資料購入費を予算計上することが難しい状況であり、何を次代に引き継いでいくべきかを長期的視野に立って見極めることが不可欠である。また、収集資料のより一層の活用を図るためには、常設展示内に収蔵品の展示スペースを設ける必要があり、改修計画の中で検討していく。

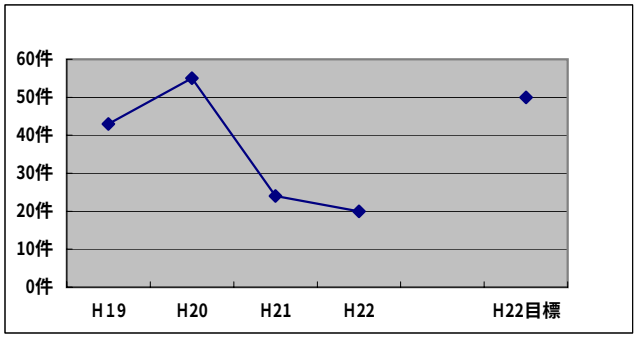
目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度	基本的な手段に対する評価
6	調査研究の実施	調査研究の件数	H19実績	35件	☆☆☆☆	**平成22年度実績** ○学芸員の博物館専門職員としての資質を高め、専門分野の学術的研究をはじめさまざまな豊富な知識を享受し、特別展の開催等、多様な事業に資するため、各種情報の収集に努めつつ、調査研究活動を行ってきた。
			H20実績	35件		
			H21実績	49件		
			H22実績	63件		
			H22目標	40件		



平成23年度見通し
○博物館及び分野ごとの共通テーマに基づいた年度ごとの課題調査、学芸員個別の研究テーマによる調査、特別展･企画展に向けた事前の調査を柱とし、博物館の諸活動を支える基礎的活動として積極的に取り組んでいく。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
調査研究事業	554	512	502	△ 52	○限られた人員で広い分野をカバーしなければならないため、調査研究のテーマを将来の展覧会開催や各種講座など確実にその成果を現せるものに絞って効率的に行う必要がある。そのための調査項目の年次計画策定が課題となる。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度	基本的な手段に対する評価
7	利用者環境の向上	不満件数（来館者アンケート調査）	H19実績	43件		**平成22年度実績** ○来館者アンケートによる施設や応対に対する不満件数は、前年度より少ない20件で目標を達成することができた。来館者の応対については様々な局面でホスピタリティーの向上に努めているが、施設設備の面では老朽化が進んでおり、年次計画に基づいて計画的に修繕を行った。
			H20実績	55件		
			H21実績	24件	☆☆☆☆	
			H22実績	20件		
			H22目標	50件		



平成23年度見通し
○館全体の空調を管理している中央監視システムを老朽化による不調のため更新する。そのほか、年次計画に従って施設各所の修繕を行っていく。
○来館者により満足してもらえるよう、職員をはじめ案内業務などの委託業者も含めて研修などによりさらなる接遇の向上に努める。

事業名	H21決算	H22予算	H22決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
運営事業	32,818	33,478	32,973	155	○時代の要求に即応した運営ができるようマネージメント力を高める必要がある。
施設設備維持管理	71,382	60,546	59,922	△ 11,460	
展示設備維持管理	2,834	1,200	1,155	△ 1,679	○維持管理費の節減により万全の保守管理が難しく、迅速な修繕で対応する方針である。来館者や収蔵品に影響が出ない範囲で効率的な維持管理を行っていく。
プラネタリウム維持管理	9,678	7,651	7,645	△ 2,033	
移動天文車維持管理	15,297	852	851	△ 14,446	
楠歴史民俗資料館管理運営費	0	7,044	7,044	7,044	